

デジタル版『渋沢敬三著作集』へのメッセージ

渋沢雅英 様(公益財団法人渋沢栄一記念財団理事長)

これは渋沢敬三の一番新しい仕事だと思います。渋沢敬三はデジタル時代の幕開けの前に亡くなりましたが、このような電子的な情報提供の手法については、早くからその意味と必要を理解し、新しい技術の出現を待ち望んでいたと思われます。自らの著作がいち早く「自動脚注表示機能」を搭載してウェブ化されたことを心から喜んでいるに違いありません。

岡田林太郎 様 (勉誠出版株式会社社長)

渋沢敬三サイトのご案内ありがとうございました。

ご連絡いただき前に、弊社スタッフと「デジタルヒューマニティーズとは何なのか? なにができるのか?」ということを考えていたところでした。

そしてデジタル版『渋沢敬三著作集』を拝見し、これは「新しい読書体験・研究体験をもたらすものである」と感じました。ここで Wikipedia とつながっているように、将来、さまざまなデータが脚注としてサイドノートに表示されていくようになれば、今までの文献渉猟といった作業は飛躍的に越境化・簡略化され、部屋にいながらにして、世界中のあらゆるリソースと直結していく、というイメージが湧き起きました。

また、索引も「そのページに飛べる」というだけでなく、言葉の使用頻度から分布までが一目瞭然となり、従来の紙媒体の索引と比べて、引き出せる情報がとても増えています。これまで膨大な労力をはらって紙媒体での索引を作っていましたが、近い将来それも過去のものになるのかもしれません。

それぞれに独立して保管されていた書籍・資料・データが、デジタル化されることによって、背後に「膨大」かつ「まったく異なる」書籍・資料・データを内蔵するようになる。そこで無限に連鎖する情報を共有することで、学問領域を超えた交流が生まれる。デジタル版『渋沢敬三著作集』は、漠然としたデジタルヒューマニティーズのイメージに、明確な輪郭を与えるものだと言えるでしょう。

デジタル版『渋沢敬三著作集』 閲覧システム eReading

渋沢敬三の著作の「新しい読み」が可能に

書籍の本文中に出現するキーワードについての情報を左右のサイドノートに表示することができる画期的な仕組み、eReading。

『渋沢敬三著作集』全5巻 (平凡社、1992-93)

『祭魚洞雑録』『祭魚洞襍考』『東北犬歩当棒録』『南米通信』『日本魚名の研究』『犬歩當棒録: 祭魚洞雑録第三』『日本釣漁技術史小考』のほか、私信を含む諸作品、草稿、雑誌論文、講演録などを収録。

「渋沢敬三アーカイブ」

渋沢敬三記念事業実行委員会の公式サイト。公益財団法人渋沢栄一記念財団および国立情報学研究所連想情報学研究開発センターと協力して開設しています。

<http://shibusawakeizo.jp/>

渋沢敬三アーカイブ

検索

The screenshot shows the homepage of the Shibusawa Keizo Archives. At the top, there's a large banner with the title '渋沢敬三アーカイブ' and '一生涯、著作、資料' (Life, Works, Materials). Below the banner, there's a large portrait of Shibusawa Keizo. To the right of the portrait, there's a sidebar with a red circle highlighting the '著作を読む' (Read Works) button. The main content area has several sections: '渋沢敬三とは' (Who is Shibusawa Keizo?), '関連イベント' (Related Events), 'もうひとつの民間学' (Another aspect of folk studies), '渋沢敬三の立候補' (Nomination for election), '渋沢敬三記念事業' (Shibusawa Keizo Memorial Project), and '渋沢敬三年譜' (Shibusawa Keizo Yearbook). A red arrow points from the '著作を読む' button down to the '書籍目次を見る' (View book catalog) link in the footer of the main content area.

渋沢敬三アーカイブ > 著作を読む > 書籍目次を見る > eReading で全文を読む → 次頁へ

デジタル版『渋沢敬三著作集』および著書解題の公開にあたりましては、著作権者（著作権継承者）の皆様よりご承諾を頂きました。
また、『渋沢敬三著作集』の出版社である株式会社平凡社様からは格別のご理解、ご協力を賜りました。

デジタル版『渋沢敬三著作集』閲覧システム (eReading)

A [三角形のボタン] ページを移動することができます

B [目次・検索] 書籍の目次から各ページに移動することができます。ワードを入力して全文を検索することもできます

C [索引] eReading システムによる書籍の自動索引を一覧することができます

D [著作一覧] 書籍の一覧を表示します。書籍を選んで読むことができます

E [表示設定] パネルが開き、書籍閲覧画面の設定ができます

F [次ページ][前ページ] ページを移動することができます

G [拡大][縮小] 書籍の表示の拡大縮小ができます

H [全体表示] ページ全体を表示します

- ※キーボードの左右の矢印キーでもページを移動することができます

デジタル版『渋沢敬三著作集』閲覧システム (eReading) は、国立情報学研究所の阿辺川武特任准教授らが開発したもので、本サイトへの導入は、国立情報学研究所の御協力によって実現いたしました。

特徴 1 自動脚注表示機能

本文に出現するキーワードについての情報をサイドノートに表示する「自動脚注表示機能」を搭載しており、本文を表示すると同時に情報が提示されます。表示される情報はあらかじめ決められたものではなく、ページをめくる度にシステムが自動で項目を選択・表示します。

現在の閲覧システムでは、日本語版 Wikipedia (約 867,000 項目) の中から、ページごとに関連するキーワードを表示することが可能となっています。将来は、他の有用なデータベースの内容も表示できるようにしていく予定です。

特徴 2 自動索引生成機能

テキスト化した文章を解析し統計的な処理を施すことで、あるキーワードが「どこに」「どのくらいの頻度」で出現するかを一覧することが可能となっています。これも、あらかじめ作成したものではなく、システムが自動で生成しています。

特徴 3 本文検索機能

